自己点検・自己評価

(令和7年4月)

学校法人ギャラクシー学園
東京ギャラクシー日本語学校

自己点検・自己評価

5: 達成している 4: ほぼ達成している 3: どちらともいえない 2: 取り組みを検討中 1: 改善が必要

1. 教育理念・目的等

評価

1	1-1	理念・目的・育成人材像は定められているか	5
2	1-2	学校の特色は何か	5
3	1-3	学校の将来構想を抱いているか	5
4	1-4	理念に基づく教育が行われているか	5

<現状・具体的な取り組み/課題>

「日本語学習を望むあらゆる外国人に対して、その目的を達成させるべく質の高い日本語教育を提供し、日本語によるコミュニケーションと国際相互理解の促進を目的とする」という理念のもと、創立以来39周年を迎えた。コロナ禍後、留学を控えていた諸外国の学生が来日をする数が増え、最終学期には全教室が稼働するほど賑やかな学校生活となっている。多国籍、多目的の学生達の多様なニーズに応えるべく教職員は日々研鑽を重ね、来る認定日本語教育機関設立に向けて新たにその理念、目的、目標を掲げ邁進すべく取り組んでいる。

2. 学校運営

評価

5	2-1	運営方針は定められているか	5
6	2-2	事業計画は定められているか	5
7	2-3	運営組織や意思決定機能は確立され、効率的なものになっているか	5
8	2-4	人事や賃金での処遇・職場環境の改善に関する制度は整備されているか	5
9	2-5	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	5
10	2-6	学校運営を客観的に評価し、維持向上させる機能が整備されているか	4
11	2-7	危機管理体制は整備されているか	5
12	2-8	施設・設備は教育上の必要性及び学生の安全確保に十分対応できるよう学校教育法に基づき整備されているか	5

<現状・具体的な取り組み/課題>

多国籍の学生の多目的なニーズに対応する学校運営は、学園の理事会、評議員会により客観的に運営状況を評価され、継続できている。理事会、評議員会で承認された事業計画の元、状況に即した細やかな学校運営を心がけ、教職員の連絡網、学生と学校を繋ぐクラスLINEの充実など、常日頃から有事の対応にも備えられている。学校設備の点検は日常的に行われ、情報の蓄積となるデータベースシステムの見直しも定期的に行われている。

3. 教職員

評価

13	3-1	教育理念・目的が教職員間で共有されているか	5
14	3-2	教育の質を向上させるための取り組みが確立されているか	5
15	3-3	教職員評価を行っているか	5

<現状・具体的な取り組み/課題>

教職員一丸となって、教育理念・目的の達成に日ごろより認識を持って活動している。教職員の評価は授業のモニタリングや授業情報共有を通じて、積極的な状況把握により行われている。また、各部署からの能動的な改善策があれば、関係部署での話し合いや学校運営責任者の判断により解決する体制を取っている。

また、教員の質を向上させるための教員研修が定期的に行われている。

自己点検・自己評価

5：達成している 4：ほぼ達成している 3：どちらともいえない 2：取り組みを検討中 1：改善が必要

4. 教育活動				評価
16	4-1	カリキュラムは体系的に編成されているか		5
17	4-2	授業評価の実施・評価体制はあるか		4
18	4-3	目標に向け授業を行うことができる要件・資質を備えた教員を確保しているか		5
19	4-4	成績評価は適切に行われているか		4
20	4-5	各種日本語試験の認定率向上のための指導体制は整っているか		5

<現状・具体的な取り組み/課題>

目標に合わせたコース設定や、選択科目、進度やアプローチ方法を変えたクラスなどが選べ、学生の進路に沿った学習の成果が期待される。これには、クラス担任をはじめとした担当教員による面談や、アドバイスなどが重要であり、希望すれば定期的なもの以外にも面談を受けることができる。さらに、学生からの授業、教員、学校運営に関するアンケート結果や評価には真摯に向き合い、関係部署での話し合いにより改善する体制を取っている。
成績評価は適切に行われているが、今後卒業認定要件について具体的に表せるようにしたい。

5. 学生支援				評価
21	5-1	進学・就職指導に関する体制は整備され、有効に機能しているか		5
22	5-2	学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか		5
23	5-3	学生の心身の健康管理・自己・怪我サポートを担う体制があり、有効に機能しているか		5
24	5-4	学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか		5
25	5-5	災害発生時の学校でまた家での対応について必要な情報を与え、定期的な避難訓練をしているか		4
26	5-5	保護者と適切に連携しているか		5
27	5-6	卒業生への支援体制はあるか		5

<現状・具体的な取り組み/課題>

国籍に関わらず精神的に不調を訴える学生の数は一定数おり、注意深く対応しているところであるが、メンタルヘルスに対応する体制をさらに整える必要性があり。気になる学生への声掛けや配慮、緊急連絡用の学校携帯電話やクラスLINEを利用したコミュニケーション等で学生が孤立しない体制は整えてはいるが、引き続き対策を講じながら学生の学習面以外の配慮も続けながら、学校運営を続けていきたい。必要に応じて保護者にも連絡を取り、個々の対策を講じている。
進路指導としては、教員による年度を通しての進学指導体制があり、また、キャリアセンターによる就職支援も充実している。
災害時の避難対応策については各国語での情報提供をし、クラス内、授業中での対応訓練を年2回行っている。今後、棟屋外に非難する訓練も計画したい。

6. 在留管理と生活指導				評価
28	6-1	入国・在留関係の管理・指導と支援が適切に行われているか		5
29	6-2	日本社会を理解するための支援が適切に行われているか		5
30	6-3	我が国の法令を遵守させる指導を行っているか		5
31	6-4	常に最新の学生情報を把握しているか		5

<現状・具体的な取り組み/課題>

入国在留管理庁より令和6年度在留管理優良校（クラスI）に選定され、引き続き、学生に寄り添った進路指導や学習指導を軸に在籍管理を続ける。
学生の最新情報は毎学期の学生本人に確認して、迅速なデータベースへのアップロード体制を取っている。

自己点検・自己評価

5：達成している 4：ほぼ達成している 3：どちらともいえない 2：取り組みを検討中 1：改善が必要

7. 学生の募集と受け入れ			評価
32	7-1	学生の受入方針は定められているか	5
33	7-2	学生募集活動は、適正に行われているか	5
34	7-3	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	5
35	7-4	入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか	5
36	7-5	適正な定員設定及び在籍者数になっているか	5

〈現状・具体的な取り組み/課題〉

海外説明会、オンライン説明会および、韓国、中国の事務所を通じて、各国の留学エージェントとの良好な関係維持と円滑な学生募集が行われている。ホームページからの直接応募や在本邦関係者からの問い合わせも増え、各入学希望者の将来の希望に合ったコース選びや入学時期をアドバイスするなど、入学前からの適切な指導が行われている。

8. 財務			評価
37	8-1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	5
38	8-2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	5
39	8-3	財務について会計監査が適正に行われているか	5
40	8-4	財務情報公開の体制整備はできているか	5

〈現状・具体的な取り組み/課題〉

学生の学習環境を整えるため、教室内のモニター設備、PC活用の利便性を考えた設備への予算も十分取られている。事業収支にも不安要素はなく、会計監査も適正に行われて、財務状況公開については要望があれば対応できるようになっている。

9. 法令等の遵守			評価
41	9-1	法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	5
42	9-2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	5
43	9-3	自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	5
44	9-4	自己点検・自己評価結果を公開しているか	5
45	9-5	関係省庁への定期報告を遅延なく実施しているか	5

〈現状・具体的な取り組み/課題〉

法令等を遵守し、適正に運営をしている。改善点が見つかった場合は速やかに対応できるように柔軟な視点を持ち、自己点検・自己評価の公表にホームページにて最新版を公開している。さらに、第三者評価の導入や具体的なシステムづくりについて検討したいところである。

10. 社会貢献			評価
46	10-1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	4
47	10-2	学生のボランティア活動を奨励・支援しているか	4

〈現状・具体的な取り組み/課題〉

地域や社会の要望に応じ、教育施設を活用してもらう体制はできている。学生のボランティア活動は積極的に後押しをしており、地域からの情報等は各階の掲示板に公開し支援している。町会行事も学生にできる限り紹介し、4年に一度の例大祭となる祭り神輿への担ぎ手参加など、学生にも日本文化に直接触れる機会を提供できている。

自己点検・自己評価

5: 達成している 4: ほぼ達成している 3: どちらともいえない 2: 取り組みを検討中 1: 改善が必要

〈総括〉

コロナ禍後、定員を充足する学生が入学しており、教室の稼働率も上がっている。全ての教室で円滑な授業運営ができるように、また、やや古い机や椅子は交換されて、設備環境が整えられた。学生とのコミュニケーション、教員間でのコミュニケーションを大切にした事業運営と、安定した財務状況により、認定日本語教育機関としての課程再編に付随した運営面での変化にも柔軟に対応できる基盤が整っていると考えられる。

責任者 永井 早希子

実施期間 令和6年4月1日～令和7年3月31日